



病院機能評価にむけて図書室改善のとりくみ

塚本 誠子

I. 刈谷総合病院図書室の概要

刈谷総合病院は刈谷市と豊田グループ7社によって設立されました。病床数は607床、市民病院的な役割を担っています。図書室の蔵書数は単行書6,000冊、製本雑誌は9,000冊で、年間受入雑誌は和洋合わせて約260タイトルです。診療棟の改装工事により2003年5月に図書室は地下1階103㎡から3階東向き240㎡に移転をしています。

II. 司書の実務

機能評価項目の中に「司書の配置が望ましい」とあり、病院は専任司書を一人雇い入れました。病院図書室に来たばかりの司書である私は実務の道しるべが必要であり、近隣の医学図書館・病院図書室の先輩司書を訪ね、見学させてもらい、実務的な質問から今後の展望まで教えていただきました。

先輩司書らの実績を見て、当院図書室としてはどこをどのように改善して行くか方針を立てました。積極的に図書委員会を通じて上へ提言し、一人一人の利用者に丁寧に接することで図書室へのニーズを引き上げました。

〈2003年実務の実際例〉

- ①近隣の医学図書館・病院図書室を見学 (1月～4月)
- ②単行書を NLMC/NDC/看護学分類し、書架を適正に並びかえる。(2月～11月)
- ③図書関係の規定—図書室利用規定・図書委員

会規定・図書購入規定・図書分類内規の策定 (4月～8月)

- ④図書室移転に伴い書架・閲覧机・カウンター等のレイアウトを考案、掲示の一新 (5月～10月)
- ⑤全職員に向けてアンケートの実施・集計 (4月～8月)
- ⑥Library News を全部署にメール配信 (8月から毎月)
- ⑦近畿病院図書室協議会加入への提案 (8月提案・11月加入)

III. 訪問審査

訪問審査は10月28日から3日間にわたって行われました。診療領域・看護領域・事務管理領域、各7名のサーベイヤーが図書室を訪れ、閲覧室全体の雰囲気や、図書・雑誌の状態、書庫の整備状況などを4～5分見てまわり、その後司書への質疑応答が5分～10分程度行われました。



〈サーベイヤーからの質問例〉

- ①図書室は全職員がいつでも使えますか
- ②図書の分類はどうしていますか
- ③図書室にはどのくらいの数の本や雑誌がありますか
- ④蔵書の管理はパソコンでしていますか
- ⑤検索はできますか
- ⑥文献複写は頼めますか
- ⑦新刊の情報は出していますか
- ⑧図書室の予算はどのくらいですか
- ⑨患者には開放していますか

Ⅳ. その後

訪問審査後の全体講評で、図書室は非常に良

い評価を得ました。しかし、右往左往しながら初めての業務に取り組んだ司書にとって、この評価はギャップを感じずにはいられませんでした。このような良い評価を得られたのは、なによりも施設面での勝利と言えます。当院の図書室は非常に居心地の良い、新しい、明るい広い図書室だからです。

それでも、専任の司書が来てから、各職員がすこしずつ図書室を身近に感じるようになってきたことも感じています。「司書って何をする人？」から、「司書さんに聞いてみよう」まで意識が変わってきたことこそ、機能評価をきっかけとして当院図書室がもっとも改善された点かもしれません。